O2-042

保育所看護職者の保育保健活動における役割遂行
—自らの役割を中心に—

遠藤 幸子[1]、大西 文子[2]、川島 美保[2]

[1]日本赤十字豊田看護大学　大学院　修士課程、
[2]日本赤十字豊田看護大学大学院

【はじめに】

保育所看護職者の位置づけ、勤務形態は地域により異なり、慢性疾患や医療的ケア等、保育保健ニーズの多様化に応じて、保育保健活動の充実が求められ、子どもの健康及び安全に際して、保育所看護職者の専門性を活かした役割遂行が必要不可欠である。保育所看護職者がどのように役割を認識し、役割遂行できているかを明らかにすることを目的とする。今回は一部である保育所における自らの役割をどのようにとらえているかを報告する。

【研究方法】

A県内で保育保健活動に従事している保育所勤務の経験年数が2年以上の保育所看護職者7名を対象に、半構造的面接法による質的記述的研究を実施した。語りの内容は逐語録を精読し、意味のまとまりごとにコード化した。類似性と相違性に基づき、分類・整理し、個別分析を基に統合分析を行った。

【倫理的配慮】

本研究は日本赤十字豊田看護大学研究倫理委員会の承認（承認番号2703号）を得て実施した。

【結果及び考察】

保育所看護職者の保育保健活動における自らの役割について、4つのコアカテゴリーを抽出した。保育所看護職者は【保育保健活動における不明確な看護師の役割】を認識し、【虐待及び発達障害児への関わりの不十分さ】や【労働条件による困難な役割遂行】があり、保育保健活動の対応では時にもどかしさを感じるものの、頼りにされる【役割遂行への誇らしさ】を抱いていた。保育所看護職者は保育所保育指針を知らないことや役割が果たせているか分からないこと、採用時期や引き継ぎの兼ね合いで具体的な保育保健活動が浸透できていないこと、勤務時間や勤務形態により継続かつ一貫した専門的な対応に限界があること等、役割遂行上の困難が示唆された。一方、保育保健活動の充実を目指して取り組む意欲も明らかとなった。虐待や発達障害児に対して関わりの必要性は認識しているが、十分介入できていない現状を認識しており、保育所看護職者は専門職として積極的なアプローチができるよう他職種と連携し、保育士や専門職との専門的知識や技術と相互作用を活かした実践が必要と考える。保育保健活動は地域による職場の環境や労働条件及び人的環境等に相違があり、役割遂行に影響するものと考える。今後、さらに保育保健活動の充実のためにこれらの課題を解決する必要がある。（本研究報告は、平成27年度日本赤十字豊田看護大学大学院修士論文の一部である。）

O2-043

対話と傾聴を基本とするネウボラナースからの示唆
ネウボラナースの健診の実際（1）

向井 美穂[1]、上垣内 伸子[1]、井上 知香[2]

[1]十文字学園女子大学　人間生活学部　幼児教育学科、
[2]常葉大学短期大学部　保育科

【目的】

フィンランドのネウボラではネウボラナース（保健師）が、妊娠期から子どもが就学する前まで継続的で切れ目のない家族への支援を行っている。その家族とかかりつけのネウボラナースは定期的な個別健診を重ねながら信頼関係を構築していく。本研究ではネウボラナースと親の関係構築の実際を健診場面の観察調査及びインタビュ調査により明らかにし、ネウボラナースの役割について考察する。

【方法】

2015年9月にフィンランドのウロヤルヴィ市のネウボラナースの健診場面に陪席し、観察を行う。また、ネウボラナースにインタヴュ調査を行う。データ収集と使用及び個人情報の保護について文書と口頭で説明し承諾を得た。

【結果と考察】

健診は担当ネウボラナースの個室で行われ、50分程度であった。

＜健診場面の観察調査＞

生後1か月の第一子を連れた母親：妊娠期から担当している母親と打ち解けた様子で話が始まる。対話の為の手引きに沿って質問がなされるが、母親からの答えに応じて、オープンエンドな質問をする。母親はストローラーにいる乳児の様子を見てあやしたりしながら、ネウボラナースに出産後の気持ちについて語る。その後、乳児の健診を行う。母親に乳児の様々な反応を見せながら発育・発達の確認をし、丁寧な説明をする。乳児が順調に育っていることを確認しつつ母親からの具体的質問に応じる。

妊娠後期の妊婦：妊娠期の親との対話の為の手引きに沿って対話が進む。第二子妊娠中の母親は、途中、第一子の出産時のあまりよくない思い出について涙を見せながら語り始める。ネウボラナースは第一子のカルテを確認しつつ母親の話に耳を傾ける。過度に共感的になることなく、母親の語りを丁寧に聴き、特にコメントはしない。その後、母親の健診を行う。体重測定・エコー検査等をしながら母親・胎児ともに順調であることを確認する。

＜ネウボラナースのインタビュ調査＞親が自分の思いを語れるようになることを大切にする。必要に応じて専門的見地からの具体的アドバイスをすることはあるが、指示（指導）はしない。それぞれの親が新しい家族を作る過程を支援し、必要な情報を提供していく。

ネウボラナースは親の話を**傾聴**し、継続的な**対話**を重ねることで親へ安心感を与えている。対等な関係でありながら専門性をもつネウボラナースの存在は子育てをしている親にとって信頼おける子育ての支援者となっていくことが考えられた。

Presented by Medical*Online